

令和5年度 高知市民意識調査

調査結果報告書

高 知 市

はじめに

本市では、平成23年3月に総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本的事項を定めた「2011高知市総合計画」を策定し、各施策に取り組んできました。

令和3年1月には、南海トラフ地震への総合的な対策の推進、少子高齢化や人口減少の加速に歯止めをかけるための産業振興、移住・定住促進、子育て環境の整備などの地方創生への取組の強化、地域共生社会の実現等、本市を取り巻く社会経済情勢の変化に的確に対応するために「2011高知市総合計画 後期基本計画」を策定し、取組を進めています。

このような市政のさまざまな分野に関して、多様化する住民のニーズを伺いながら、今後の市政の課題に対応するため、「令和5年度 高知市民意識調査」を実施させていただきました。

この調査結果につきましては、「2011高知市総合計画 後期基本計画」の着実な推進をはじめ、今後の市政運営に当たっての貴重な資料として活用させていただきます。

結びに、今回の調査にご協力いただきました市民の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

令和5年11月

高知市長 岡崎 誠也

目次

I	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査項目	1
3	調査の実施概要	1
4	留意点	2
5	調査票の回収状況	2
II	回答者の属性	3
1	性別【問1】	3
2	年齢【問2】	3
3	高知市での居住年数【問3】	4
4	居住地域【問4】	4
5	居住形態【問5】	6
6	職業【問6】	6
7	世帯（家族）構成【問7】	7
8	同居家族【問8】	7
III	調査結果	8
1	定住に関することについて	8
2	町内会や地域との関わりについて	17
3	子育て支援に関することについて	32
4	防災に関することについて	48
5	広聴・広報に関することについて	81
6	若者の雇用対策について	106
7	文化に関することについて	110
8	中心市街地に関することについて	144
9	環境問題に関することについて	178
10	SOG I（性的指向・性自認）に関することについて	194

集計表（数表）	203
1 定住に関することについて	203
2 町内会や地域との関わりについて	206
3 子育て支援に関することについて	210
4 防災に関することについて	215
5 広聴・広報に関することについて	226
6 若者の雇用対策について	233
7 文化に関することについて	235
8 中心市街地に関することについて	259
9 環境問題に関することについて	275
10 SOGI（性的指向・性自認）に関することについて	279
調査票	281

I 調査概要

1 調査目的

本市では、令和3年1月に総合的かつ計画的な行政運営の基本方針を示した「2011 高知市総合計画 後期基本計画」を策定し、南海トラフ地震への総合的な対策、産業振興や移住・定住促進をはじめとする地方創生への取組の強化、地域共生社会の実現などに向けて取組を進めている。

「令和5年度 高知市民意識調査」は、このような市政のさまざまな分野に関する市民の皆様のニーズを把握し、「2011 高知市総合計画 後期基本計画」の着実な推進をはじめ、今後の市政運営に当たっての貴重な資料として活用していくことを目的として実施した。

2 調査項目

本年度における市民意識調査の調査項目は、以下のとおりである。

- 回答者の属性について
- 定住に関することについて
- 町内会や地域との関わりについて
- 子育て支援に関することについて
- 防災に関することについて
- 広聴・広報に関することについて
- 若者の雇用対策について
- 文化に関することについて
- 中心市街地に関することについて
- 環境問題に関することについて
- SOGI（性的指向・性自認）に関することについて

3 調査の実施概要

本年度調査の実施概要は、以下のとおりである。

調査地域	高知市全域
対象者	令和5年6月1日現在の住民基本台帳登録者のうち、18歳以上の市民270,381人の中から3,000人を無作為抽出
実施期間	令和5年7月6日（木）～7月26日（水）
実施方法	郵送配布・郵送回収調査法
調査・分析実施機関	株式会社 西日本科学技術研究所

4 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下のとおりである。

- ① 単数回答の場合、本文及び図表の比率はすべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記している。このため、比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- ② 複数回答の場合、比率の合計が100.0%を超えることがある。
- ③ 令和3・4年度の市民意識調査と同様または類似する設問については比較を行っている。この場合、直近の調査を「前回調査」もしくは「前回」と表記している。
- ④ クロス集計の際に母数が少ない場合は分析結果から除いている場合がある。

5 調査票の回収状況

本年度調査における調査票の有効回収数は1,489部、同回収率は49.6%となっている。調査対象者の性別・年齢別・居住地域別の回収状況は、以下のとおりである。

	母集団人口	抽出サンプル数	有効回収数	回収率 (%)
全体	270,381	3,000	1,489	49.6
性別				
男性	124,391	1,375	606	44.1
女性	145,990	1,625	866	53.3
年齢				
18～19歳	5,819	64	15	23.4
20～29歳	27,529	307	92	30.0
30～39歳	30,592	339	136	40.1
40～49歳	44,467	494	214	43.3
50～59歳	44,987	496	242	48.8
60～64歳	20,273	222	129	58.1
65～69歳	19,635	216	154	71.3
70～74歳	23,840	270	179	66.3
75歳以上	53,239	592	318	53.7
居住地域				
北部地域	75,794	842	409	48.6
南部地域	31,772	351	158	45.0
東部地域	32,663	362	184	50.8
西部地域	44,625	496	242	48.8
中部地域	71,685	804	395	49.1
鏡地域	1,013	8	6	75.0
土佐山地域	764	3	1	33.3
春野地域	12,065	134	76	56.7

注1) 全問無回答の2件は無効とし、有効回収数に含めていない。

注2) 性別・年齢・居住地域についての回答が無回答であったものを除外して集計。

II 回答者の属性

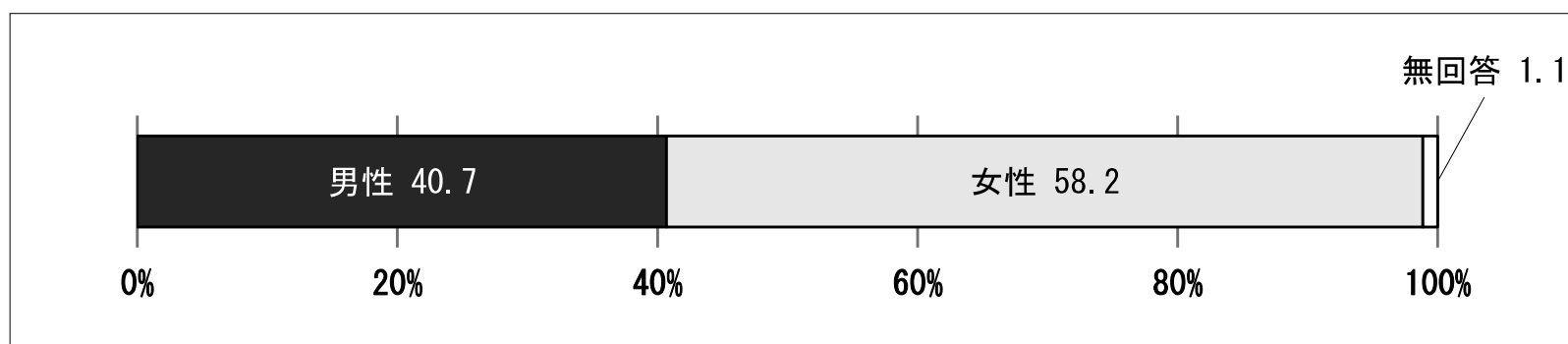
1 性別【問1】

回答者の性別割合は、「男性」40.7%、「女性」58.2%となっている。

母集団人口（高知市の18歳以上人口）の構成割合と比較すると、「男性」の割合は5.3ポイント低く、「女性」の割合は4.2ポイント高くなっている。

カテゴリ	件数	全体 (%)
男性	606	40.7
女性	866	58.2
無回答	17	1.1
調査数	1,489	100.0

母集団人口(人)	構成割合 (%)
124,391	46.0
145,990	54.0
-	-
270,381	100.0



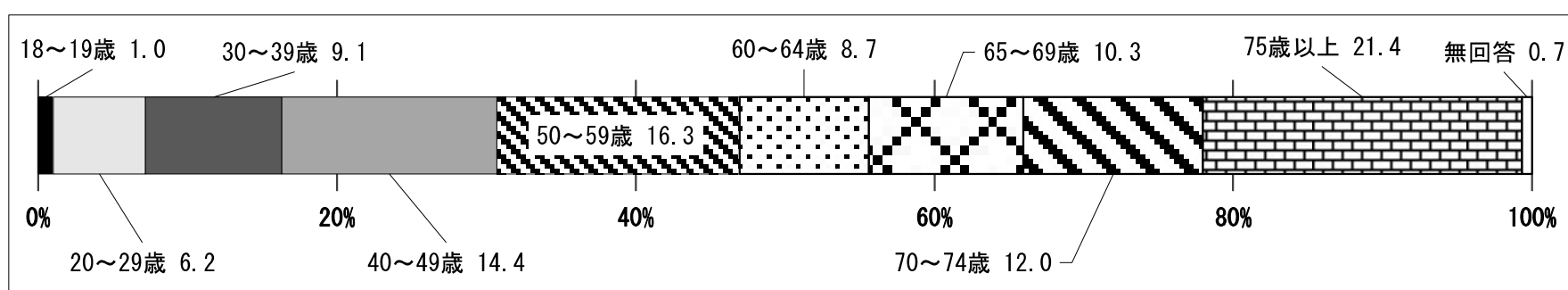
2 年齢【問2】

回答者の年齢構成は、「75歳以上」の割合が21.4%と最も高く、次いで「50～59歳」(16.3%)、「40～49歳」(14.4%)と続いている。若年層である「18～19歳」は年齢幅が小さいことから1.0%にとどまっている。

母集団人口と比較すると60歳未満の区分において、回答者の構成割合が実際の人口構成割合よりも低くなっている。特に20歳代は実際の人口構成割合との差が大きい結果となっている。

カテゴリ	件数	全体 (%)
18～19歳	15	1.0
20～29歳	92	6.2
30～39歳	136	9.1
40～49歳	214	14.4
50～59歳	242	16.3
60～64歳	129	8.7
65～69歳	154	10.3
70～74歳	179	12.0
75歳以上	318	21.4
無回答	10	0.7
調査数	1,489	100.0

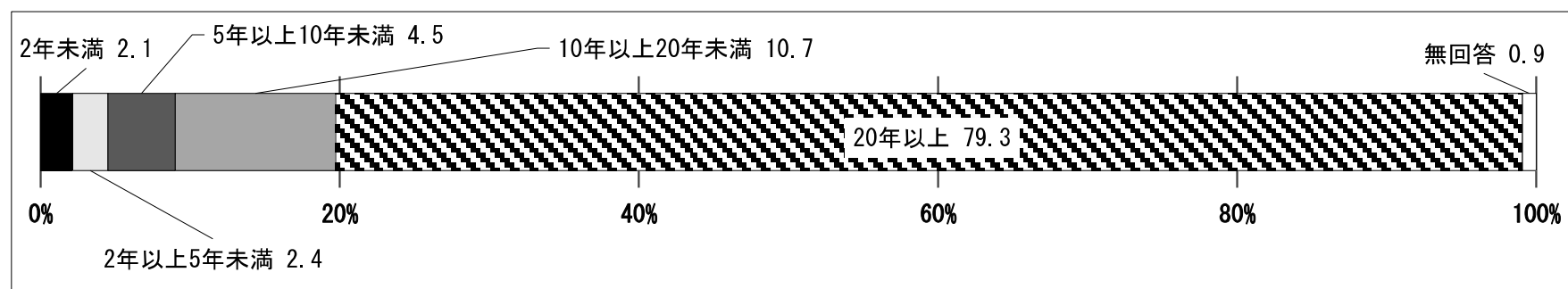
母集団人口(人)	構成割合 (%)
5,819	2.2
27,529	10.2
30,592	11.3
44,467	16.4
44,987	16.6
20,273	7.5
19,635	7.3
23,840	8.8
53,239	19.7
-	-
270,381	100.0



3 高知市での居住年数【問3】

高知市（旧鏡村・旧土佐山村・旧春野町を含む）における居住年数は、「20年以上」の割合がほぼ8割を占め（79.3%）、大きな差はあるものの、次いで「10年以上20年未満」（10.7%）、「5年以上10年未満」（4.5%）の順となっている。

カテゴリ	件数	全体 (%)
2年未満	32	2.1
2年以上5年未満	35	2.4
5年以上10年未満	67	4.5
10年以上20年未満	160	10.7
20年以上	1,181	79.3
無回答	14	0.9
調査数	1,489	100.0



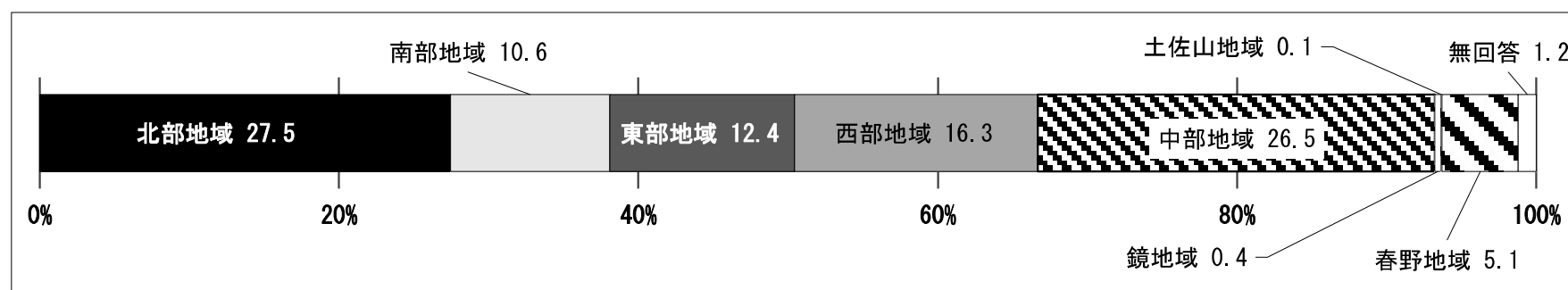
4 居住地域【問4】

高知市（鏡地域・土佐山地域・春野地域を含む）における居住地域は、「北部地域」の割合が27.5%と最も高く、次いで「中部地域」（26.5%）、「西部地域」（16.3%）、「東部地域」（12.4%）の順となっている。

母集団人口と比較すると、回答者の構成割合は実際の人口構成割合と比べて±1.2ポイント以内とほぼ類似する結果となっている。

カテゴリ	件数	全体 (%)
北部地域	409	27.5
南部地域	158	10.6
東部地域	184	12.4
西部地域	242	16.3
中部地域	395	26.5
鏡地域	6	0.4
土佐山地域	1	0.1
春野地域	76	5.1
無回答	18	1.2
調査数	1,489	100.0

母集団人口 (人)	構成割合 (%)
75,794	28.0
31,772	11.8
32,663	12.1
44,625	16.5
71,685	26.5
1,013	0.4
764	0.3
12,065	4.5
-	-
270,381	100.0



各地域を構成する地区は、以下のとおりとする。また、地区分図も合わせて示す。

地域	地区
北部地域	旭街・一宮・秦・初月
南部地域	三里・長浜・御畳瀬・浦戸
東部地域	五台山・高須・布師田・大津・介良
西部地域	朝倉・鴨田
中部地域	上街・高知街・南街・北街・下知・江ノ口・小高坂・潮江
鏡地域	鏡
土佐山地域	土佐山
春野地域	春野

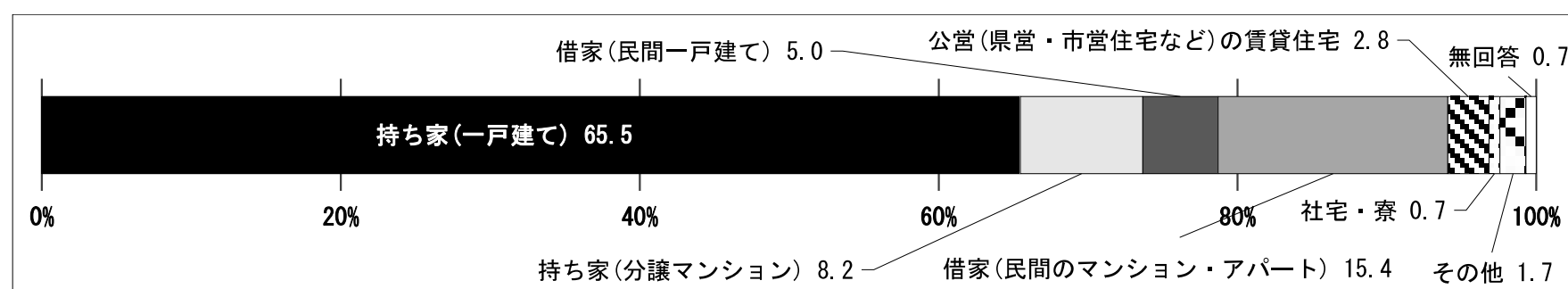


地区分図

5 居住形態【問5】

居住形態は、「持ち家（一戸建て）」の割合が 65.5%と最も高く、大きな差はあるものの、次いで「借家（民間のマンション・アパート）」（15.4%）、「持ち家（分譲マンション）」（8.2%）、「借家（民間一戸建て）」（5.0%）の順となっている。

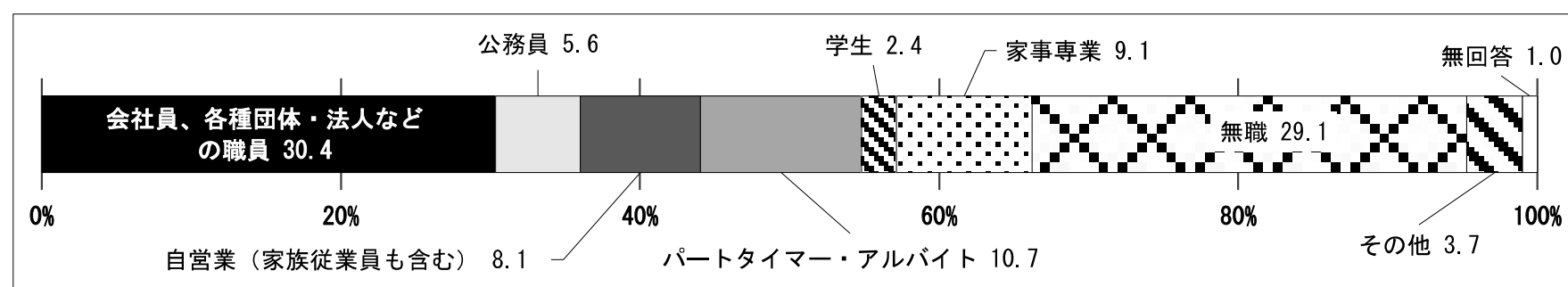
カテゴリ	件数	全体 (%)
持ち家（一戸建て）	975	65.5
持ち家（分譲マンション）	122	8.2
借家（民間一戸建て）	75	5.0
借家（民間のマンション・アパート）	229	15.4
公営（県営・市営住宅など）の賃貸住宅	41	2.8
社宅・寮	11	0.7
その他	26	1.7
無回答	10	0.7
調査数	1,489	100.0



6 職業【問6】

職業は、「会社員・各種団体・法人などの職員」の割合が 30.4%と最も高く、次いで「無職」（29.1%）、「パートタイマー・アルバイト」（10.7%）、「家事専業」（9.1%）の順となっている。

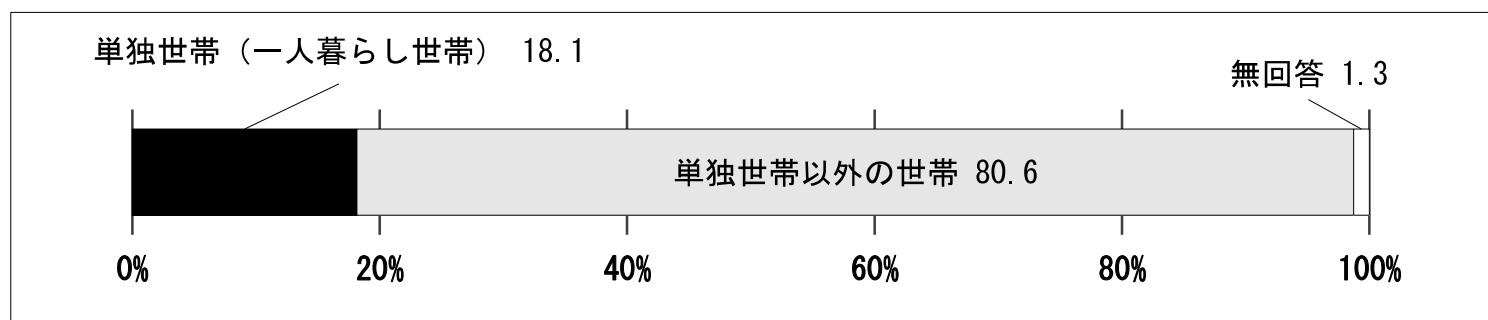
カテゴリ	件数	全体 (%)
会社員、各種団体・法人などの職員	452	30.4
公務員	84	5.6
自営業（家族従業員も含む）	120	8.1
パートタイマー・アルバイト	160	10.7
学生	35	2.4
家事専業	135	9.1
無職	433	29.1
その他	55	3.7
無回答	15	1.0
調査数	1,489	100.0



7 世帯（家族）構成【問7】

世帯（家族）構成は、「単独世帯以外の世帯」の割合が約8割（80.6%）を占め、「単独世帯（一人暮らし世帯）」が18.1%となっている。

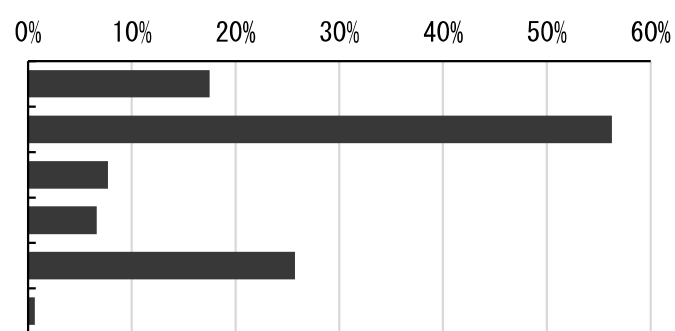
カテゴリ	件数	全体 (%)
単独世帯（一人暮らし世帯）	270	18.1
単独世帯以外の世帯	1,200	80.6
無回答	19	1.3
調査数	1,489	100.0



8 同居家族【問8】

同居家族は、「65歳以上の方がいる」が56.3%と半数を超える。次いで「どれにもあてはまらない（該当なし）」（25.7%）、「15歳未満の子どもがいる」（17.5%）、「障がいのある方がいる」（7.7%）の順となっている。

カテゴリ	件数	全体 (%)
15歳未満の子どもがいる	261	17.5
65歳以上の方がいる	838	56.3
障がいのある方がいる	115	7.7
介護が必要な方がいる	99	6.6
どれにもあてはまらない（該当なし）	383	25.7
無回答	10	0.7
調査数	1,489	-

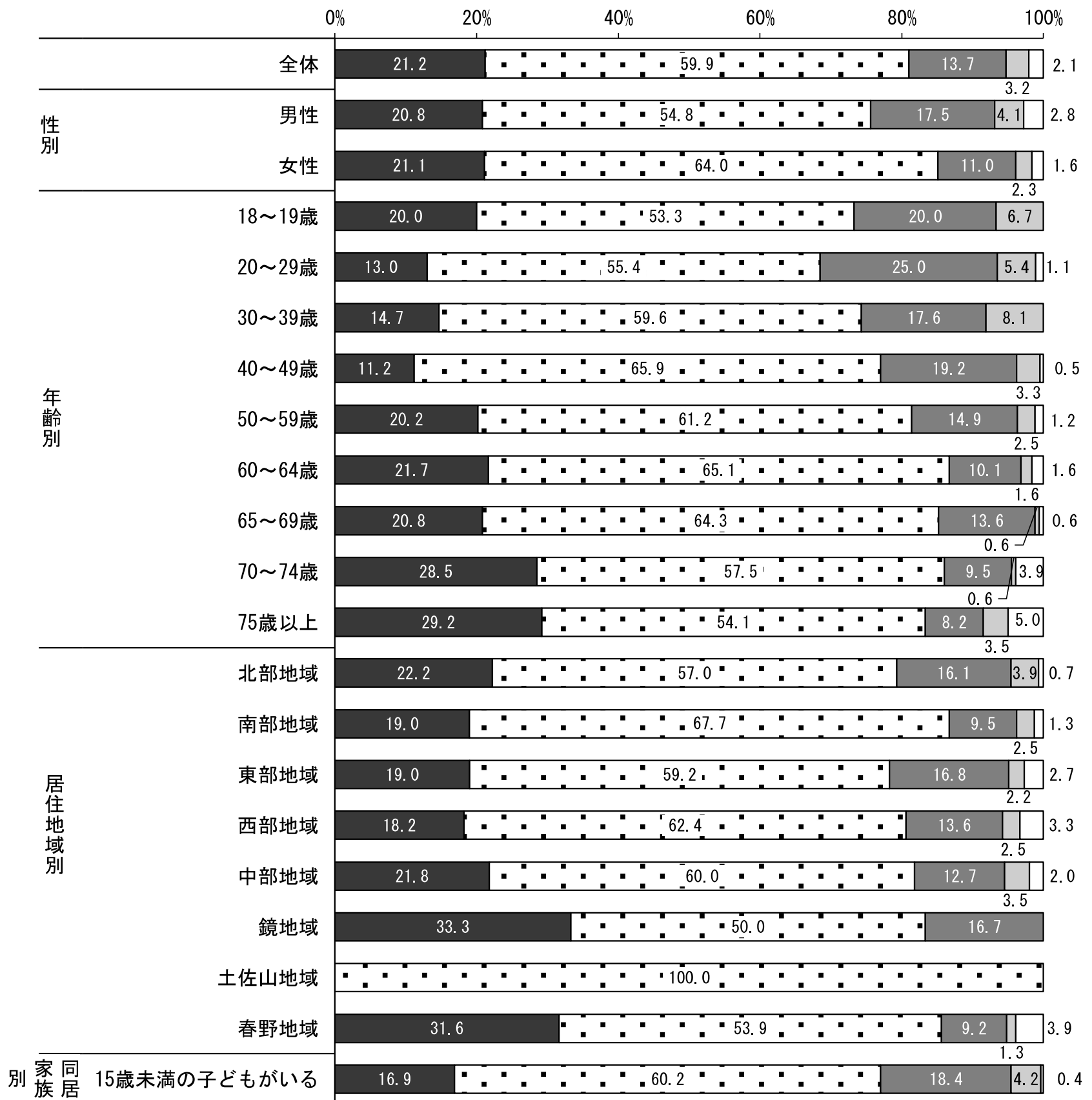


※複数回答

9 環境問題に関することについて

問 43 近年、地球温暖化が深刻な問題となっています。あなたは地球温暖化について、どのくらい関心を持っていますか。（○は1つだけ）

<地球温暖化への関心の有無（全体、性別、年齢別、居住地域別、同居家族別）>



大いに興味がある
 ある程度興味がある
 あまり興味がない
 まったく興味がない
 無回答

【全体の傾向】

- ・『地球温暖化への関心の有無』については、「ある程度関心がある」の割合が 59.9%と最も高く、次いで「大いに関心がある」(21.2%)、「あまり関心がない」(13.7%)、「まったく関心がない」(3.2%)の順となっている。
- ・“関心がある”（「大いに関心がある」または「ある程度関心がある」と答えた方）の割合は 8 割を超え (81.1%)、「関心がない”（「まったく関心がない」または「あまり関心がない」と答えた方）の割合は 16.9%と、関心を持っている人が大きく上回っている。

【性別の傾向】

- ・“関心がある”の割合は、男性よりも女性の方が高く、その差は 9.5 ポイントとなっている（男性 75.6%、女性 85.1%）。
- ・それに伴い、“関心がない”の割合も、男性は 21.6%を占め、女性よりも 8.3 ポイント高くなっている。

【年齢別の傾向】

- ・年齢が高くなるにつれて「大いに関心がある」の割合が高くなる傾向が見られ、70 歳以上の年齢層では 3 割に迫っている。
- ・同様に、“関心がある”の割合も高年齢層が高い傾向にあり、50 歳以上の年齢層で 8 割を超える結果となっている。

【居住地域別の傾向】

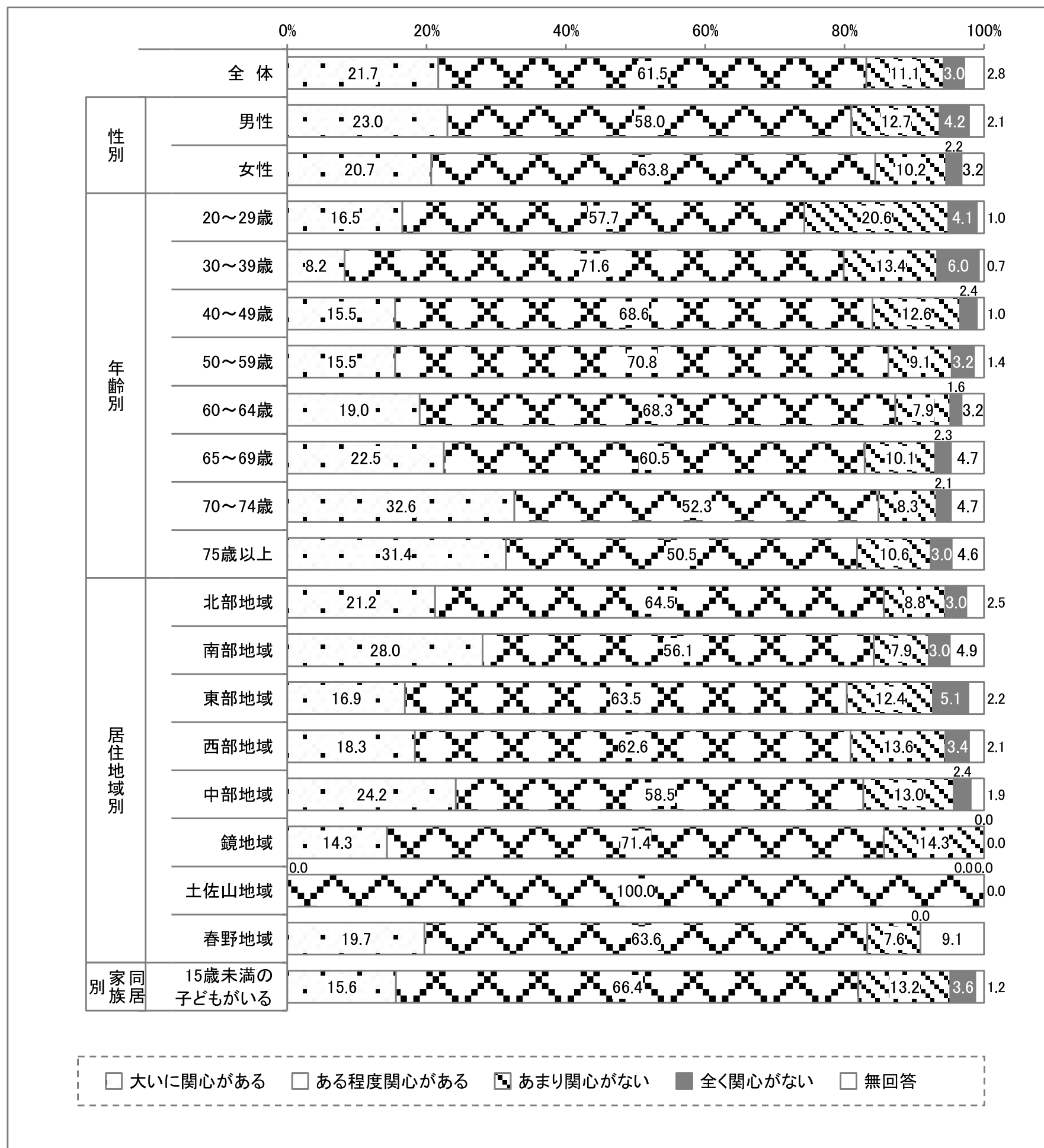
- ・サンプル数の少ない鏡地域及び土佐山地域を除き、「大いに関心がある」の割合は、春野地域において唯一 3 割を超えている (31.6%)。
- ・一方、“関心がある”の割合は、南部地域が最も高くなっており 86.7%を占める結果となっている。

【同居家族別の傾向】

- ・15 歳未満の子どもがいる世帯では“関心がない”の割合が 22.6%となっており、全体 (16.9%) より 5.7 ポイント高くなっている。

【前回調査との比較】

<地球温暖化への関心の有無（令和3年度調査結果）>



【全体の傾向】

- ・前回調査と比較すると、“関心がある”の割合は2.1ポイント減少し（前回83.2%、今回81.1%）、“関心がない”の割合は2.8ポイント増加している（前回14.1%、今回16.9%）。

【性別の傾向】

- ・男性は、“関心がある”の割合が5.4ポイント減少し（前回81.0%、今回75.6%）、“関心がない”の割合は4.7ポイント増加している（前回16.9%、今回21.6%）。
- ・女性は“関心がある”、“関心がない”ともに微増しているが、大きな変化とはいえない。

【年齢別の傾向】

- ・比較的若い年齢層で、“関心がある”の割合が減少し、“関心がない”の割合が増加する傾向が認められる。とりわけ、40歳代では前者が7.0ポイント減少し（前回84.1%、今回77.1%）、後者は7.5ポイント増加している（前回15.0%、今回22.5%）。

【居住地域別の傾向】

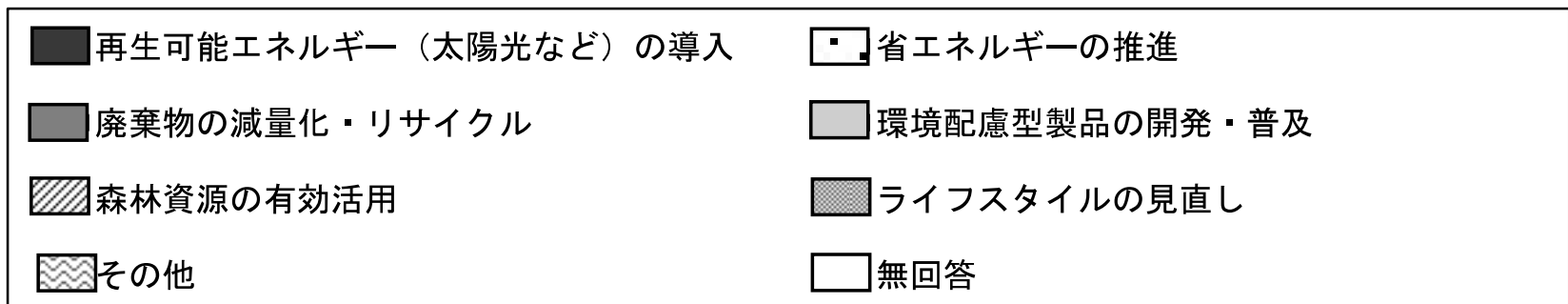
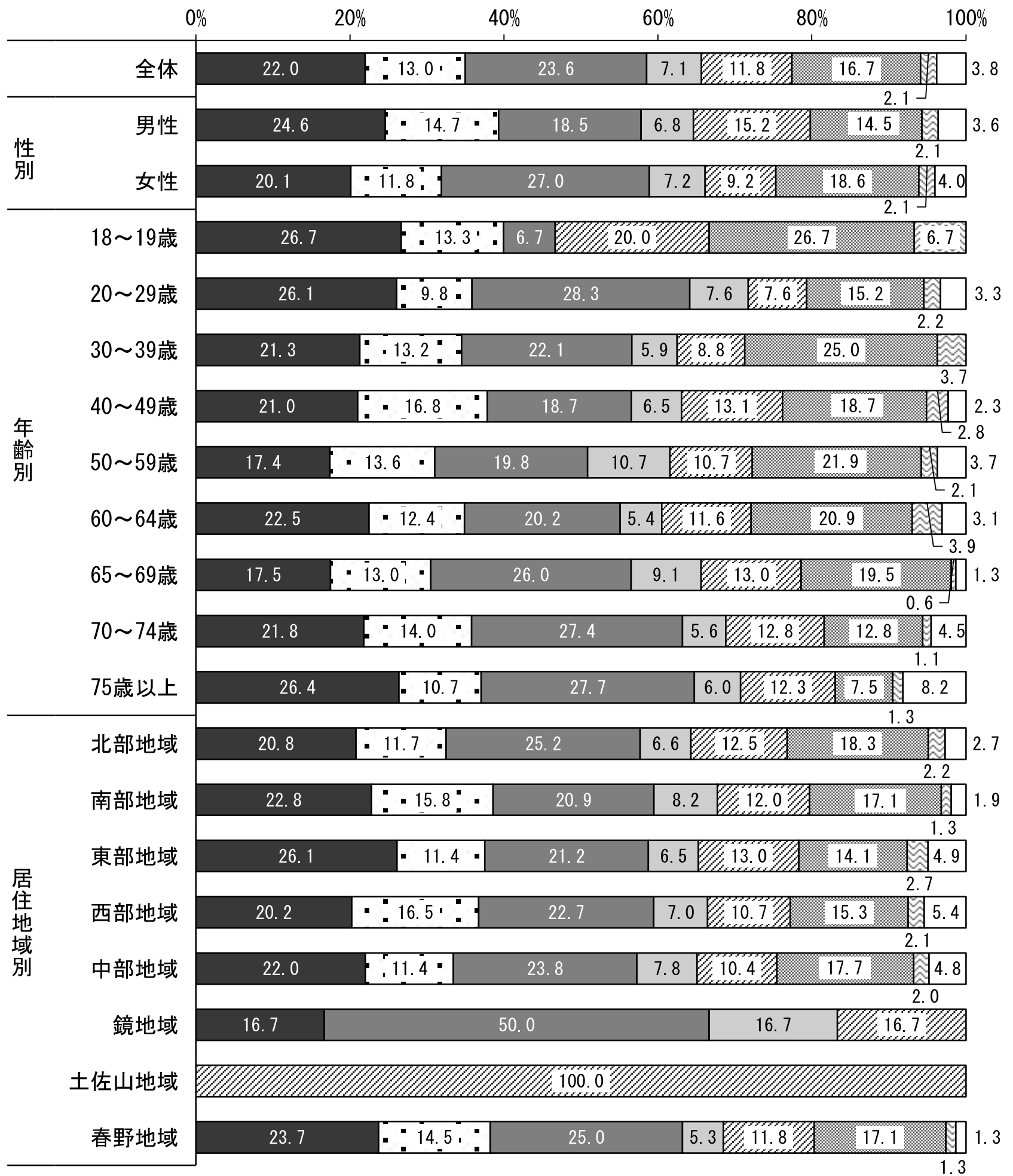
- ・北部地域において“関心がある”の割合が減少し（6.5ポイント）、“関心がない”の割合が増加していることが目立つ（8.2ポイント）。
- ・そのほかの地域においては、“関心がある”、“関心がない”の増減幅が-2.4～+2.9ポイントであり、大きな変化とは認められない。

【同居家族別の傾向】

- ・15歳未満の子どもがいる世帯では、“関心がある”の割合が4.9ポイント減少し（前回82.0%、今回77.1%）、“関心がない”の割合が5.8ポイント増加している（前回16.8%、今回22.6%）。

問 44 地球温暖化防止のためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は1つだけ)

<地球温暖化防止のための取組について（全体、性別、年齢別、居住地域別）>



【全体の傾向】

- ・『地球温暖化防止のための取組』については、「廃棄物の減量化・リサイクル」の割合が 23.6%と最も高く、次いで「再生可能エネルギー（太陽光など）の導入」（22.0%）、「ライフスタイルの見直し」（16.7%）、「省エネルギーの推進」（13.0%）の順となっている。

【性別の傾向】

- ・男性は、「再生可能エネルギー（太陽光など）の導入」の割合が 24.6%と最も高く、次いで「廃棄物の減量化・リサイクル」（18.5%）、「森林資源の有効活用」（15.2%）となっている。
- ・女性は、「廃棄物の減量化・リサイクル」の割合が 27.0%と最も高く、次いで「再生可能エネルギー（太陽光など）の導入」（20.1%）、「ライフスタイルの見直し」（18.6%）となっている。

【年齢別の傾向】

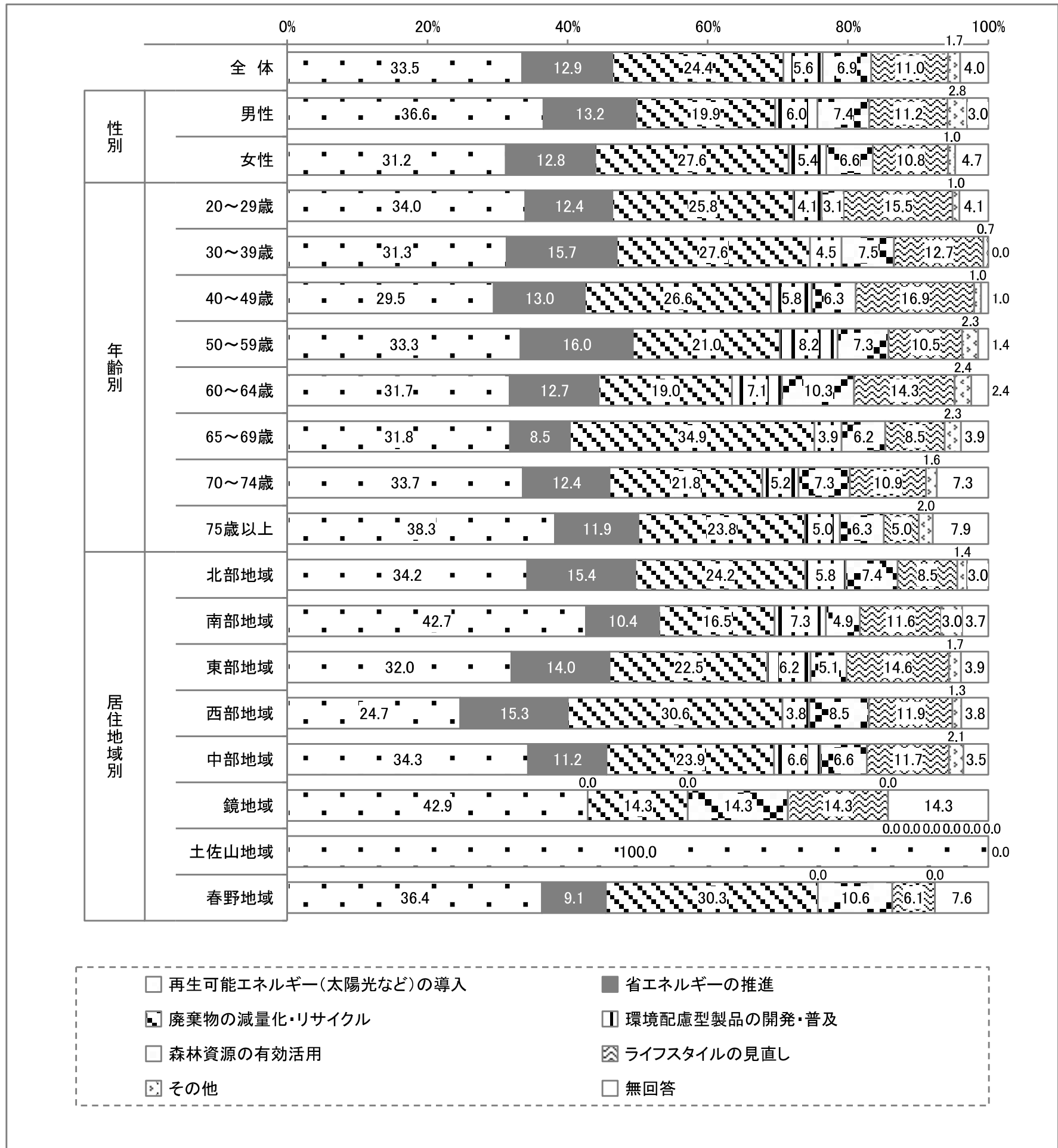
- ・65 歳以上の年齢層及び 20 歳代では、「廃棄物の減量化・リサイクル」の割合が最も高くなっている。
- ・サンプル数は少ないものの、18～19 歳、30 歳代及び 50 歳代は、「ライフスタイルの見直し」が（18～19 歳は「再生可能エネルギー（太陽光など）の導入」が同率）、40 歳代及び 60～64 歳では「再生可能エネルギー（太陽光など）の導入」の割合が最も高い。

【居住地域別の傾向】

- ・サンプル数の少ない鏡地域及び土佐山地域を除き、南部地域及び東部地域以外の地域においては、「廃棄物の減量化・リサイクル」の割合が最も高くなっている。
- ・南部地域及び東部地域では、「再生可能エネルギー（太陽光など）の導入」の割合が最も高い。

【前回調査との比較】

<地球温暖化防止のための取組について（令和3年度調査結果）>



【全体の傾向】

- ・前回調査と比較すると、「再生可能エネルギー（太陽光など）の導入」の割合が 11.5 ポイントと比較的大きく減少している（前回 33.5%、今回 22.0%）。一方、「ライフスタイルの見直し」の割合は 5.7 ポイント増加している（前回 11.0%、今回 16.7%）。

【性別の傾向】

- ・男性は、「再生可能エネルギー（太陽光など）の導入」の割合が 12.0 ポイントと比較的大きく減少し（前回 36.6%、今回 24.6%）、「森林資源の有効活用」の割合が 7.8 ポイント増加している（前回 7.4%、今回 15.2%）。
- ・女性も、「再生可能エネルギー（太陽光など）の導入」の割合が 11.1 ポイント減少している（前回 31.2%、今回 20.1%）。一方、「ライフスタイルの見直し」の割合は、7.8 ポイント増加している（前回 10.8%、今回 18.6%）。

【年齢別の傾向】

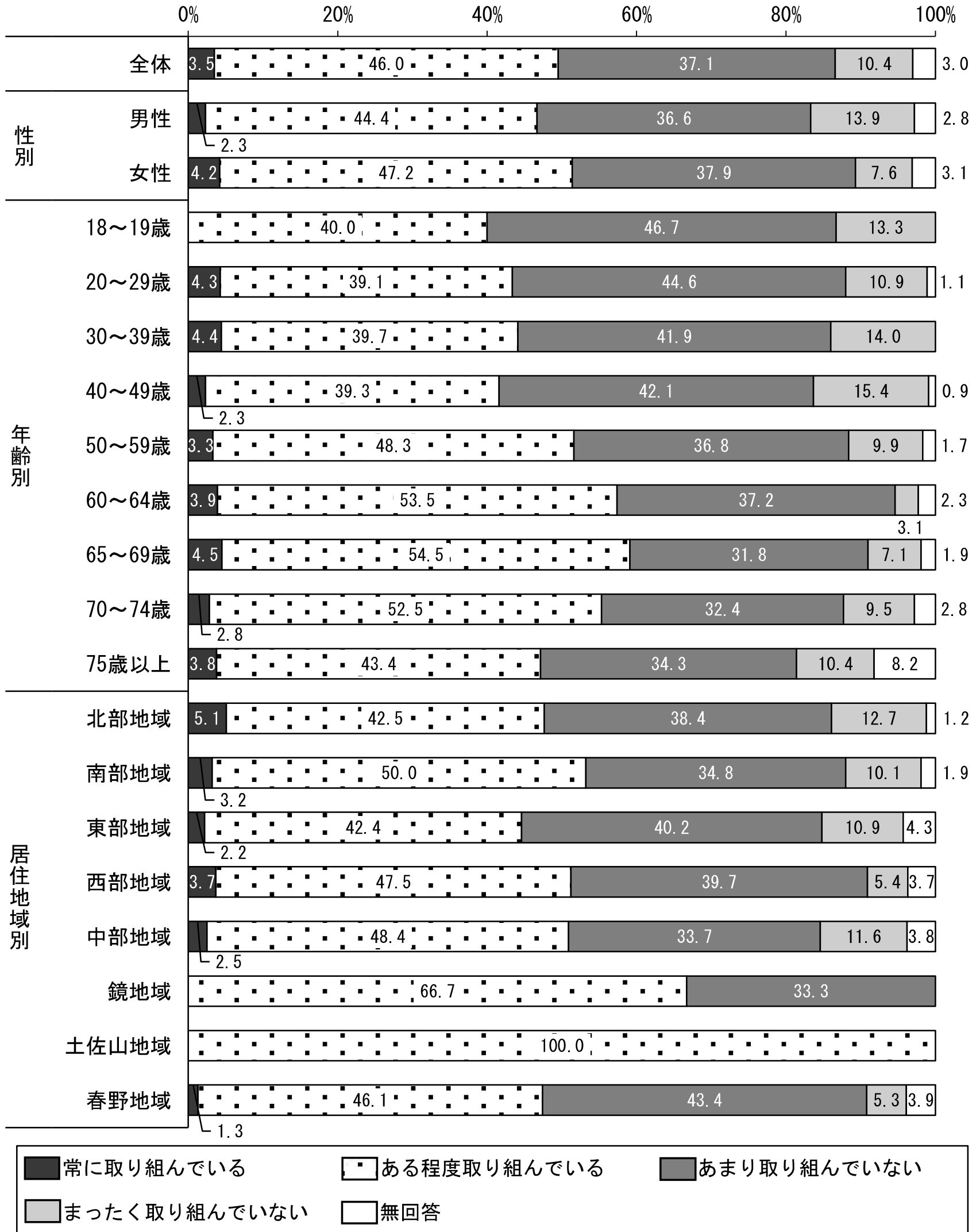
- ・すべての年齢層で「再生可能エネルギー（太陽光など）の導入」の割合が減少しており、なかでも 50 歳代（15.9 ポイント）、65～69 歳（14.3 ポイント）の減少幅が大きい。
- ・他方、「森林資源の有効活用」はいずれの年齢層でも増加している。また、「ライフスタイルの見直し」は 20 歳代のみ、「環境配慮型製品の開発・普及」は 60～64 歳のみそれぞれわずかに減少しているが、それ以外の年齢層はすべて増加している。

【居住地域別の傾向】

- ・サンプル数の少ない鏡地域及び土佐山地域を除き、「再生可能エネルギー（太陽光など）の導入」の割合は、すべての地域において減少しており、特に南部地域では 19.9 ポイントと減少幅が大きくなっている（前回 42.7%、今回 22.8%）。
- ・春野地域においては、「ライフスタイルの見直し」の割合が 11.0 ポイント増加し（前回 6.1%、今回 17.1%）、比較的增加幅が大きくなっている。

問 45 地球温暖化防止のために、あなたはどの程度取り組んでいますか。（○は1つだけ）

＜地球温暖化防止に対する取組の度合い（全体、性別、年齢別、居住地域別）＞



【全体の傾向】

- ・『地球温暖化防止に対する取組度合い』については、「ある程度取り組んでいる」の割合が46.0%と最も高く、次いで「あまり取り組んでいない」(37.1%)、「まったく取り組んでいない」(10.4%)、「常に取り組んでいる」(3.5%)の順となっている。
- ・“取り組んでいる”（「常に取り組んでいる」または「ある程度取り組んでいる」と答えた方）の割合は49.5%、“取り組んでいない”（「まったく取り組んでいない」または「あまり取り組んでいない」と答えた方）の割合は47.5%となっており、“取り組んでいる”が2.0ポイント上回っているが、ほぼ拮抗しているものと判断される。

【性別の傾向】

- ・“取り組んでいる”の割合は、男性が46.7%、女性は51.4%となっており、男性は“取り組んでいない”（50.5%）が“取り組んでいる”を上回っている。

【年齢別の傾向】

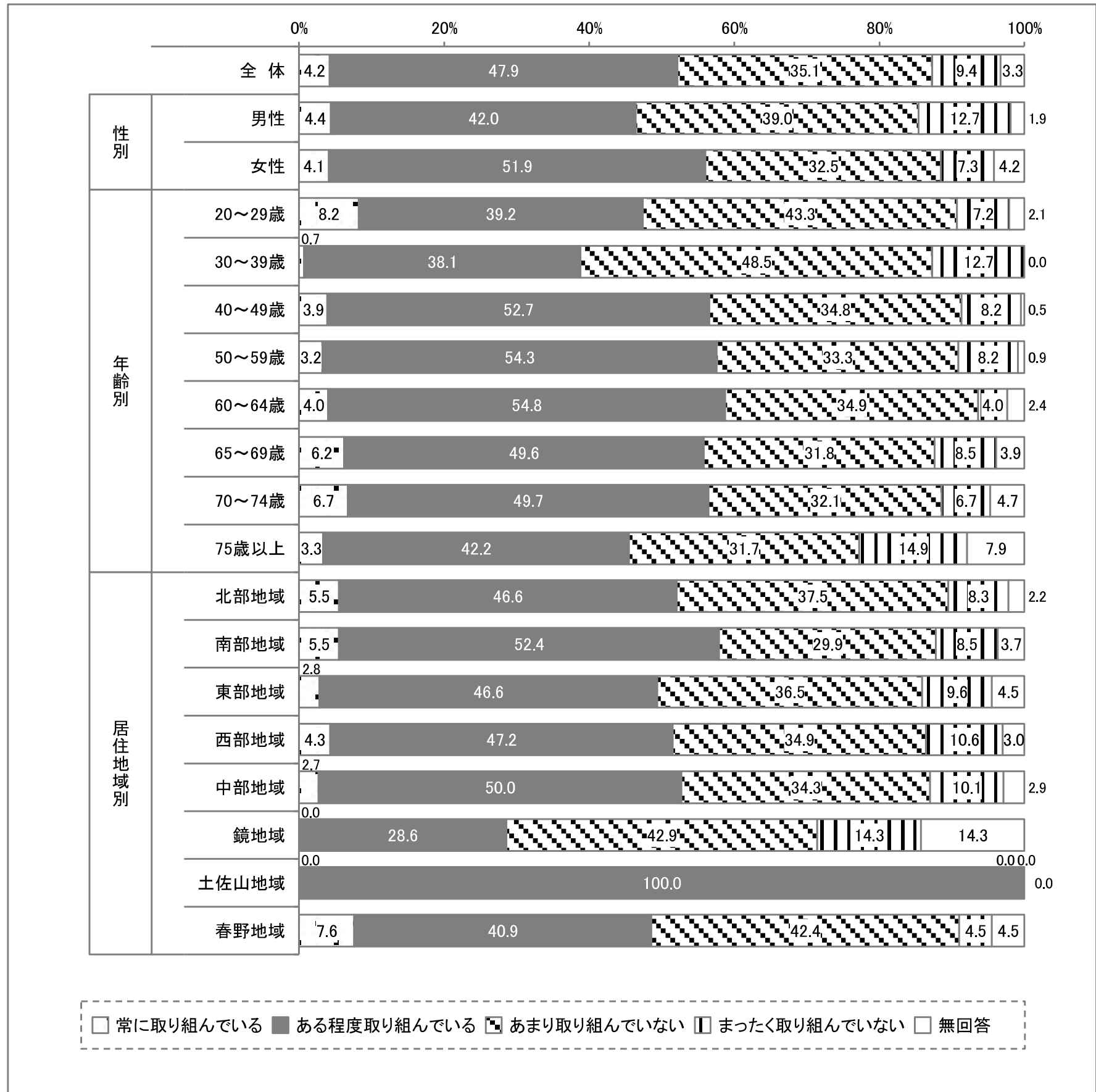
- ・50歳以上の年齢層では、“取り組んでいる”の割合が“取り組んでいない”を上回り、40歳代以下の若い年齢層は“取り組んでいない”のほうが高い傾向が見られる。
- ・65～69歳では、“取り組んでいる”の割合が6割（59.0%）に迫る一方、40歳代では“取り組んでいない”の割合が57.5%と高くなっている。

【居住地域別の傾向】

- ・サンプル数の少ない鏡地域及び土佐山地域を除き、南部地域、西部地域及び中部地域においては、“取り組んでいる”の割合が半数を超えている。

【前回調査との比較】

＜地球温暖化防止に対する取組の度合い（令和3年度調査結果）＞



【全体の傾向】

- ・前回調査と比較すると、“取り組んでいる”の割合は 2.6 ポイント減少し（前回 52.1%、今回 49.5%）、“取り組んでいない”の割合が 3.0 ポイント増加している（前回 44.5%、今回 47.5%）。

【性別の傾向】

- ・男性は、“取り組んでいる”の割合に大きな変化は見られない。
- ・女性は、“取り組んでいる”の割合が 4.6 ポイント減少し（前回 56.0%、今回：51.4%）、“取り組んでいない”の割合が 5.7 ポイント増加している（前回 39.8%、今回 45.5%）。

【年齢別の傾向】

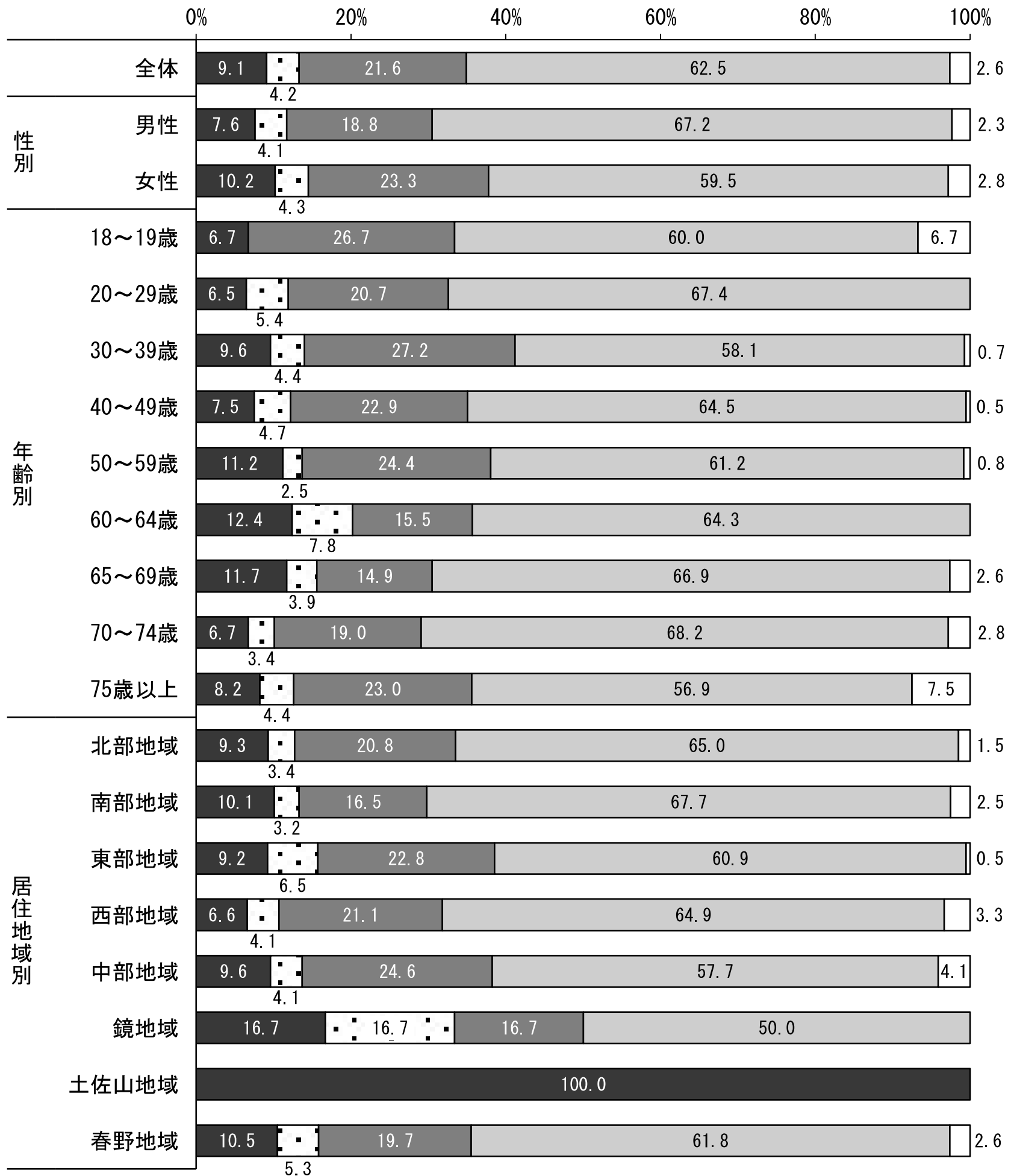
- ・“取り組んでいる”の割合は、30 歳代、65～69 歳及び 75 歳以上の年齢層で 1.7～5.3 ポイント増加しているが、そのほかの年齢層は前回調査に比べて減少しており、特に 40 歳代では 15.0 ポイントと比較的大きく減少している（前回 56.6%、今回 41.6%）。

【居住地域別の傾向】

- ・サンプル数の少ない鏡地域及び土佐山地域を除き、すべての地域において“取り組んでいる”の割合は減少している。

問 46 地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE（クールチョイス）」をご存知ですか。（〇は1つだけ）

< 「COOL CHOICE（クールチョイス）」の認知状況（全体、性別、年齢別、居住地域別） >



「COOL CHOICE」に賛同している
 賛同はしていないが、内容は知っている
 ロゴマークを見たり、言葉を聞いたりしたことがある
 知らない
 無回答

【全体の傾向】

- ・『「COOL CHOICE（クールチョイス）」の認知度』については、「知らない」の割合が62.5%と最も高く、次いで「ロゴマークを見たり、言葉を聞いたりしたことがある」（21.6%）、「COOL CHOICE」に賛同している」（9.1%）、「賛同はしていないが、内容は知っている」（4.2%）の順となっている。
- ・「COOL CHOICE」の“認知度”（「知らない」と答えた方以外）は、34.9%となっている。

【性別の傾向】

- ・男女ともに、「知らない」の割合が最も高く、男性（67.2%）が女性（59.5%）を7.7ポイント上回っている。

【年齢別の傾向】

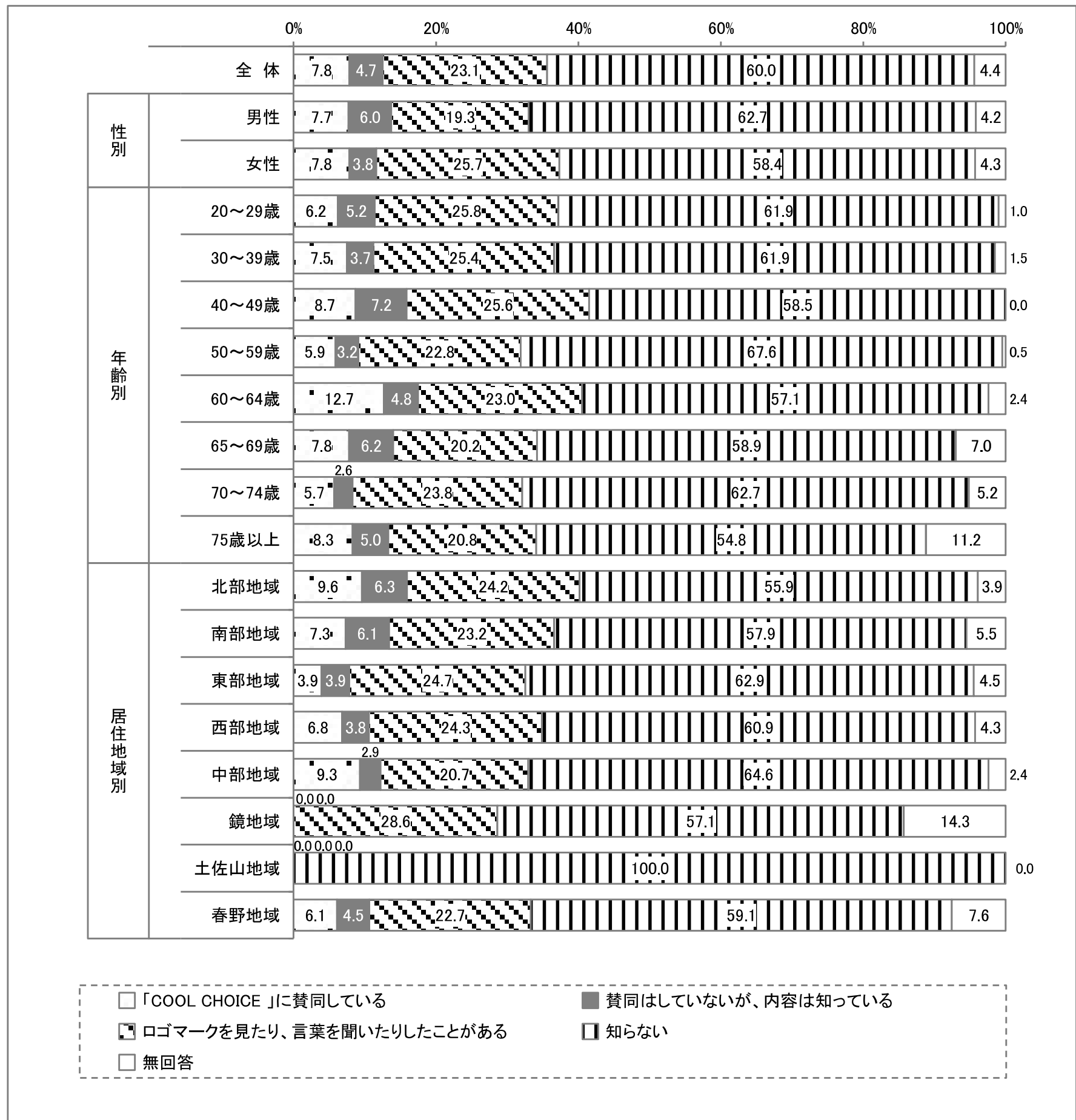
- ・すべての年齢層で「知らない」の割合が最も高く、70～74歳では7割に迫っている（68.2%）。
- ・「COOL CHOICE」の“認知度”は、30歳代が唯一4割を超え（41.2%）、70～74歳は3割に届かない結果となっている（29.1%）。

【居住地域別の傾向】

- ・サンプル数の少ない鏡地域及び土佐山地域を除き、いずれの地域においても「知らない」の割合が最も高い。
- ・“認知度”は、ほとんどの地域で3割を超えているが、南部地域のみ29.8%と3割に届かない結果となっている。

【前回調査との比較】

< 「COOL CHOICE (クールチョイス)」 の認知状況 (令和3年度調査結果) >



【全体の傾向】

- ・前回調査と比較すると、「COOL CHOICE」を「知らない」の割合が2.5ポイント増加している（前回60.0%、今回62.5%）。
- ・“認知度”は、0.7ポイント減少しているが（前回35.6%、今回34.9%）、大きな変化とはいえない。

【性別の傾向】

- ・男性は、「知らない」の割合が4.5ポイント増加している（前回62.7%、今回67.2%）。それに伴って“認知度”も2.5ポイント減少している（前回33.0%、今回30.5%）。
- ・女性は、「COOL CHOICE」に賛同している」の割合が2.4ポイント増加している（前回7.8%、今回10.2%）。

【年齢別の傾向】

- ・「知らない」の割合は、30歳代及び50歳代を除いて増加しており、特に65～69歳は前回調査に比べて8.0ポイント増加している（前回58.9%、今回66.9%）。
- ・“認知度”は、30歳代、50歳代及び75歳以上の年齢層で1.5～6.2ポイント増加しているが、そのほかの年齢層では減少しており、40歳代では6.4ポイントの減少となっている（前回41.5%、今回35.1%）。

【居住地域別の傾向】

- ・南部地域及び北部地域において「知らない」の割合が、それぞれ9.8ポイント、9.1ポイントと比較的増加幅が大きくなっている。
- ・それに伴い、“認知度”もそれぞれ6.8ポイント、6.6ポイント減少している。
- ・一方、東部地域では“認知度”が6.0ポイント増加している（前回32.5%、今回38.5%）。